

Amphipoda に寄生する有頭簇虫について 星出兵馬 (山口大・教)

山口県内で得られる Amphipoda には 8 種の有頭簇虫が寄生していることが判明した、内 6 種は *Cephaloidophora* 属に所属する。その 1 種 *Ceph. setoutiensis* n. sp. (仮称) について形態、生活史の報告である。

宿主は *Orchestia platensis* Kroyer で、寄生率は早春に最も高く殆んど 100%, 夏秋の頃は 40% 内外である。宿主腸管の始部に多く着生し、稀に 100-200 の寄生虫が腸管内に充満しているのも見られた。発生初期には細胞内生活を経過し、直径 7μ の小球状体が、漸次發育して $16\mu \times 13\mu$ 位まで単室である。次に前後両室間に隔壁を生じ又被寄生細胞の膨脹、核や細胞質の変形消失を引起す。sporont は卵形、最大個体は $80\mu \times 35\mu$ レンズ状先節を有す。cyst 形成の直前の短期間 syzygy をなし、これが活発な迴転運動の後球状又は楕円状の cyst となる。その直径は $30-45\mu$ 。単純裂開の後球形 (直径 4.5μ) の胞子を放出する。

綜 合 討 論 な し

カマシシの尾骨について 岸田久吉 (東京・林野庁)

I カマシシの脊椎式は、C-7, T-13, L-6, S-5, P-11=42 である。頸椎と尾椎とは、可なりにかわつてゐる。

II カマシシの尾は、円錐体を、上、下から押し付けた形である。その尾骨は、A, 棘状突起の有無・位置・大小 B, 関節突起の有無・位置・大小 C, 横側突起の退行度 D, 外形上長幅の相対性などによつて、明かに多型式の尾椎系であることが知られる。これを、小生は、4 類 (1. 十字型 2. 有疣型 3. 円柱型 4. 円錐型) とする。

表 カマシシの多型式尾椎系

尾椎 摘要	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
尾 椎 型	+	+	+	+	+	+	庇	庇	柱	柱	錐
棘 状 突 起	+	+	+	—	—	—	—	—	—	—	—
関 節 突 起	+	+	+	+	+	—	—	—	—	—	—
横 側 突 起	+	+	+	+	+	+	+	+	—	—	—
長 さ : 幅	$\frac{21}{28}$	$\frac{19}{28}$	$\frac{17}{26}$	$\frac{18}{23}$	$\frac{17}{20}$	$\frac{15}{15}$	$\frac{15}{10}$	$\frac{11}{7}$	$\frac{9}{3}$	$\frac{7}{2}$	$\frac{3}{2}$
長 幅 率	8	7	7	8	9	10	15	16	30	35	15

註 + は十字型 庇は有疣型 柱は円柱型 錐は円錐型 長さ:幅は 15 成体の平均 長幅率は長さの 10 倍を、幅で割つた商。小数点 2 位まで計算して、4 捨 5 入してある。

問 哺乳類の尾椎の数は個体変異が多く認められるが観察されたカマシシの尾椎数はすべて 11 個か。(加藤嘉太郎)

答 私の調べたものでは全部同数であつた。

問 尾骨にはどこまで神経が行つてゐるか。(瀧庸)

答 XI P まで神経を認めた。

問 性により相違なきや。(森為三)

答 この種では差異を認めない。

雄性外部生殖器によるシヨウジョウバエ科の分類の検討 岡田豊日 (都立大・理・生)

雄性外部生殖器特に挿入器 (phallic organs) を構成する 13 主要要素の異同が、シヨウジョウバエ科の種

間或いは種群間の自然分類学的関係を知るのに、大いに役立つことは、既に明らかにされたが、ここでは同様の方法により、従来不明の点が多かつた亜属間或いはそれ以上の分類群間の関係を検討した。用いた種は主として日本産のもの約 100 種で、得られた主要結果は、1) Steganinae の 3 属のうち *Amiota* は *Leucophenga* にやや近く、この両者は何れも *Stegana* よりやや遠い、2) Drosophilinae の 7 属のうち、*Mycodrosophila* は *Styloptera* に近く、*Drosophila*, *Chymomyza*, *Liodrosophila* の 3 者はお互に相近いが、何れも前 2 者とはやや遠く、又 *Liodrosophila* と *Scaptomyza* とは相近い、3) Steganinae と Drosophilinae との両亜科間の属の関係のうち、前者の *Amiota* と後者の *Chymomyza* 及び *Drosophila* との間が最も近い、4) *Drosophila* 属の 5 亜属は、*Paradrosophila*, *Sophophora* 亜属群と、*Drosophila*, *Dorsilopha*, *Hirtodrosophila* 亜属群とに 2 分される。

問 染色体の形態の変化との間に並行現象ありや。(椎野季雄)

答 私自身では調べていないが、諸家の研究結果から見ると、両者間に並行関係が見られる場合もある。

問 (1) 把握器と挿入器とによつて系統を考察した時にその結果は一致するか。(2) 一致しない場合はどちらを重要視して系統を考えたか。(滝庸)

答 (1) 大体一致する。(2) 挿入器。

ガンギエイ科魚類の卵殻における適応分化 石山礼蔵(水講)

日本近海産の本科魚類 21 種の卵殻について形態を比較した結果、殻の外形及び構造等に種相違が認められた。北方型とした群では角が長く、北方或は深海に分布するもの程殻は表面が角質化と同時に複雑になるのに対し、南方型では角が短く、南方に分布する程殻は薄く且つ柔組織の占める割合が増して来る。これらの事実に対して、前者では主として水温の低下に伴つて延長する孵化期間における機械的保護に、後者では水温の上昇によつて生ずる卵の発生生理に関係した要求に対する適応現象と思われる。卵殻の機能における上記 2 つの面と棲息環境の温度並に産卵様式等を結びつけて考えることによつて卵殻の形態分化を解釈するのが妥当と思われる。

問 同一種内での卵殻の変化はどのようになっているか。(鈴木正将)

答 種内の変異は種間の変異よりも遙かに小さい。

問 卵殻にある角の長短は生態的にどんな関係があるか。(滝庸)

答 角の長い群では海底の他物に懸垂し短い群では海底に埋没或は転つている。

二・三の海星類における血清学的反応 III 久保和美(富山大・文理・生)

Asterias amurensis, *Coscinasterias acutispina*, *Selerasterias satsumana*, *Coronaster volsellatus*, *Astropecten polyacanthus*, *A. scoparius* 及 *Luidia quinaria* 以上 7 種について実験を試みた。抗原は歩帯より、又抗血清(抗 *A. amurensis* 血清及抗 *C. acutispina* 血清)は兎を用いて調製し、沈降反応の反応物の測定は窒素定量によつた。血清学的関係はホモとヘテロの各反応系の比較に基づいて行われた。その結果によれば(1) これら二種の抗血清何れを用いても、*A. polyacanthus*, *A. scoparius* 及 *L. quinaria* の抗原は他の 4 種の海星のそれよりも反応が弱い。即ち血清学的に遠類に属する。(2) 残りの 4 種間の血清学的関係は

$$A. amurensis \text{---} \left\{ \begin{array}{l} S. satsumana \\ C. acutispina \end{array} \right\} \text{---} C. volsellatus$$

即ち *A. amurensis* と *C. volsellatus* は互にかけ離れている。その中間に *S. satsumana* 及 *C. acutispina* が属し、而もこの二種は互に近縁の関係にあるらしい。

以上の血清学的事項は現在の海星群の形態学的関係とよく一致している。

問 (1) 血清反応は沈降反応のみによるのか。(2) 交叉沈降反応を行えばもつと各々の種の差が出るのではないか、及び morphology と serum の分類も異同が出るのではないか。(赤司景)